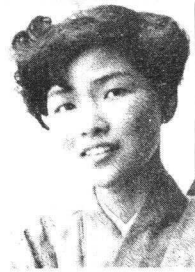


矢部榮子 あべの えいこ 俳人。昭和五年二月七日新潟市生れ、二十九年九月十日没（二九〇一五冊）。昭和十七年新潟高等女学校入学、十九年学徒動員。翌年集團檢診で胸部疾患が見つかり、二十一年一月内野療養所に入所。一旦退所し再發、爾來重症としてその最期まで療養所で過ごす。二十四年加藤敏郎主宰『寒室』に参加。『青空』や『今欲しきもの』今告げたいは、この薄命俳人の痛切な代表作。

没後出版せられた『青空が流れる』或るたましいの手記（昭和二十一年八月十八日新光社）は、療養生活中の日記誌。



青空が流れる
或るたましいの手記

矢部 榮子

★推薦者★
加藤 敏郎氏
死の前で、生を輝けし俳句と日記本が身重に託る
若井 突氏
病苦を遍して自ら死にたがめる筆は狂いながら
深尼 須磨子氏
たしかにこの遺稿には生命の火花のこぼるものがある
石垣 みや子氏
病室で社友の身をむくく一人の技は人の胸をうつ
山田 派一氏
病室の床かきめく病神が舞りかけてくる感じだ